

---

# 聖光の吸血鬼

蒼歌 嵐雪

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

聖光の吸血鬼

### 【Zコード】

Z6411Z

### 【作者名】

蒼歌 嵐雪

### 【あらすじ】

普通の音大生、蒼空 深琴は、ある口豎琴を持ちながらトライクにはねられそうな少年を助け自らが死んでしまう。無念たっぷりの深琴は自称カミサマにボーナス付きで転生させられてしまつた。

ヴァンパイアの同族がいない異世界で気ままに旅をする冒険紀。

R-15は保険です。毎日投稿を日指します。

## プロローグ　『沈みゆく意識の中』（前書き）

初投稿です。  
まだまだ未熟なのですが、  
よろしくお願いします。

## プロローグ　『沈みゆく意識の中』

薄れゆく意識の中で、蒼空深琴は思った。死ぬのかな…………。次に目覚めるとお母様がここへ来てくださる。家族も、友達も、恋人も全部…………。

…………あれ？…………」「…………だらうか。

「　！」のせとあの世の境田じゅょ　「

「　それっ！　！」

「　ゴフッ！…………お主、カミサマに向かって向をするのじやー…………」

あ…………反射的にしゃしゃったよ。

とこつかなんでここにいるんだ？僕は確か…………。

「　お主はトラックにはねられそうになつた少年を助け、自らが犠牲になつて死んだのじゅ。」「

そうだ！…………死にたくないかったなあ。

つて誰だよーそれに何で心読んでるんだよー

「　カミサマじゅー他のことほーー口メンツじゅ。ちじアソント

使い方違くないか？…………教えろよー

「 蒼空深琴 男 17歳 音大生 趣味・豊琴 ・・・・ 女つ  
ぽいな 」

「 くらえつ！ 」

「 そんぐらい避けれるわい。・・・・・ さつきのは不意打ちだからじやぞ？ 」

ちっ・・・・・ 今の状況を整理しそう。  
僕は死んだ。そして今自称力ミサマと対面中だ。  
そして多分用件があるんだろうなあ。

「 舌打ちするんじゃない！自称でもないわい！・・・・・ だがしか  
しそれ以外は正解じゃ。お主には異世界へ転生してほしい。 」

・・・・・ やつぱこのパターンか。  
多分あの子は天使とかそういうとか。

「 予想通りだつたかい？それなら話は早い。みんな正解じゃ。特  
別に君には自身の設定も決めさせてあげよう。特例じやぞ？ 」

わかつた、それ以外に道はないだろう。

その代わり、バランス崩壊しない程度に強くさせてもらひつ。

「 分かった。レスター、マネキンと設定紙を。 」  
「 お持ちいたしました。レヴェル最高創生神様。 」

あの少年だ。仕事早いなあ。

しかしあの人本当に偉いんだ。

「「」のマネキンはおぬしの姿を設定できる。設定紙はそのまま通り設定だ。後はお主に任せたぞ。」

まあバランス崩壊しない程度にやりますか！！

しかし深琴は気づいていない。

設定を決めるというのはとても大変で、面倒くさいから神様が放り出しただけだといつ」と云々。・・・・・。

ふう、こんなもんだな。

名前はエツツェル＝ディリーン

セイント＝ヴァンパイアという亜型の希少な吸血鬼で、時空と魔力の歪みから生まれ出された。

髪色は薄い蒼色で瞳は濃いブルー。

中世的な顔立ちで背も男子にしては低め。

頭がよく、魔法と楽器の才能があり、動物に好かれる。その他etc。

昔から頭と情報処理能力はよかつたなあ。

「・・・・・。感激じや。こんなに短時間で設定を終わらせるなんて・・・・・。」

「それにしても・・・・・。だがこれだけじゃ心配だからこのガチャガチャを3回回せ。」

これでも心配つてどんな世界だよ・・・・・。

まあやるか。ガチャガチャガチャ。

えつと、念話と想像具現と魔術付』・・・・・でこれは?

「お主にボーナスじゃ。心配なのでな。」

まあいろいろお世話になりました。

これからはエツツェル『デイリーンとして生きていきます。

「最後の最後でそんなこと言つでない。これから先は一人だ。しかしくじけてはいけない。おぬしが死ぬ間際に思つたように。幸せが待つているので。さらばじゃ。エツツェルよ。」

床が光る。そこには不思議な模様が描かれていて・・・・・。

そこで意識は強制的にシャットダウンした。

## プロローグ　『沈みゆく意識の中』（後書き）

お楽しみいただけたでしょうか?  
感想待つてます

## 第一話 朝日新聞のレーティング（前編）

投稿しました。  
ヴァンパイアってありきたりでしょうか？

## 第1話 朝日と雪のゲーム

目が覚めると酷く疲れたような気がした。

いや、気のせいではない。確かに疲れている。

なぜだろ？、深夢ことエッシュエルは考えた。

いや、当たり前のことだが、ヴァンパイアは陽の光に弱いのだ。

エッシュエルは気づかない。いくら頭が良くて根は天然と言つか馬鹿と言つか……。

「まぶしい…………。ん？まぶしい…………？してことは……光か。」

納得した様子のエッシュエルだが、自身の考えた設定に感謝すべきだ。

セイント＝ヴァンパイアは光に少しだけ耐性がある。

まあ、だからわざわざそうしたのだが。

「まあ、まず能力の確認と行きますか。」

念話は、人がいないのでためしようがないし魔術付とも魔術が使えない。

ということは自動的に想像具現になる。

想像すれば具現化する、それだけだとカミサマから聞いていた。

( 石こうりでできた剣でてこゝーー )

欲は少なめにしたほうがいいと思いつかの剣を想像する。

カラーン・・・・・・。

本当にただの石こうの剣が出てきた。

「 魔術の使い方知らないや。どうしようかな? 」

『 ふふふ、わしを忘れてないか、このわしを。』

「 ああ、カミサマ。忘れてたよ。 」

『 ガーン、ショックじゃ・・・・・・。ともかくこれが念話なの  
じや。 』

「 この脳に直接語りかけてくるような変な感じがねえ。でもこれは僕はしゃべってるよね? 」

『 そうじやからまず念話の練習を・・・・・・ヒツヅェル、魔獣  
が来た。 』

「 やばーー僕戦えないんだけど。 」

今更ながらヒツヅェルは全裸である。

わしは助けぬ、初戦闘は自力での。』

「 なんでだよー！？・・・・・でも考へないと死ぬんだ。考へろ  
考へろ考へろ！－！－！」

卷之三

光で体力も減つてきている、狼型の魔獸はどんどん迫つてきている。

「・・・・・　僕は動物に好かれやすいんだ。カリサマ—魔獸も動物かな？」

『あたりじや。しかし強い魔物ほど襲つてきやすくなるから。』

エツツエルはじりじりと魔獣に近づいていく。そして魔獣はへたり込んだ。

「よしよし、お前可愛いなあ。」

「クワーン。」

『…と、言つてお主全裸だから想像具現で服作つてくれ。』

結構なバカである。

「 ベストにマントに下着に靴にズボンと、 こんなもんかな？ 」

エツツェルが作ったのは、漆黒のベストと背中に蒼炎が縫われている蒼色の蒼炎のマント。

普通の下着に蒼いズボン、黒みがかつた青い靴と、蒼黒ばかりである。

『 かつこにいのあ。ひゅーひゅー！………… 最後に一つだけじや。『蝙蝠生成』と言つと、おぬしの部下達の蝙蝠が生まれる。最初の一匹だけ大人じやがそれ以外は一から育てる』ことになる。この世界のことは大人『ウモリに聞け。さらばじや。』

「 カミサマ有難う。」

棒読みである。

もう返事は返つてこなかつた。

「 よし、『蝙蝠生成』」

白い煙が起ち上る。涙が出そうになつて目をつぶつた。

もう一度眼を開けると、そこには・・・・・・。

蒼く輝く一匹の蝙蝠がいた。

## 第1話 朝日と雪のゲーム（後編）

作者 「微妙な終わり方だね。」

エッセル 「しょうがないよ。区切りが悪いもん。」

作 「執筆がんばります！」

エ 「ファイト（www）」

作 「何だよそれ。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6411z/>

---

聖光の吸血鬼

2011年12月21日22時53分発行